

第3回南知多町中学校再編委員会（R4.5.18開催）にて

「熟議」各グループからの発表内容まとめ

グループA

「目指す児童生徒像、基本的な小中学校の教育体系の実現へ」

協議内容要旨

- ・キーワード「学力」「地域との関わり」で次のように協議が進んだ
- ・学校の特色として何か特化したもの「あの学校はこれがすごい」というものが打ち出せるとよい。
- ・例えば「英語：すべての生徒が英検にチャレンジし、中学校を卒業するまでに英検3級以上を取得する講座を設ける！」「海：近くにある海を活かして、海に親しむ活動（ライフセービング等）を行う！」などはどうか。将来役に立つ授業といえる。
- ・塾や習い事が少ない地域だから、勉強で困ると誰に聞けばいいか分からず。学校の授業、補習、部活動はどうか。通学の時間なども利用できるのではないか。
- ・ただ、学校では決められた授業を行うので精一杯であり、新しい活動を立ち上げることは難しい面もある。部活も「学校部活→地域部活」へ移行する流れがある。多くを学校で担うのは難しい。
- ・塾や習い事が少ない地域だからこそ、特色を出すには地域の協力、支援が必要である（コミュニティ・スクール）。
- ・現在も各小中学校では、その地域の特色ある活動（魚さばき、干物づくり、海での遠泳、砂の造形…など）を行っている。
- ・地域の力、現在各校の教育活動を生かし、どんなことを行えるといいか、今後も継続して考える必要がある。

グループB

「小中学校での部活動の在り方」

協議内容要旨

(統合校の部活動について再編委員の感想)

- ・今の時代、ネットを活用した部活動があってもいいのではないかと思います。例えば

学校の情報発信として、ホームページやラインなど生徒が発信できる仕組みができるといいと思います。ただし、そういう活動を指導できる先生がいるかどうかが問題となる。

- ・新しい部活動として、ダンス部があると良かった。ダンスを小さいころから習っている子も多いし、少人数でもできる。
- ・今後の生徒数の推移から考えると、現在ある部活を維持する必要があるので、新しい部活をつくることは難しい。

(統合校の部活動について子どもたちの反応)

- ・現在の学校は、運動部しかないので、吹奏楽や英会話など文科系の部活があつて楽しみである。
- ・現在の学校は、女子バレーボールがないので、楽しみにしている。

(地域部活への移行について課題や問題点)

- ・今後は、地域の活動として、部活動が移行していくようだが、指導者がいないのではないか。
- ・現在、休日に先生が部活を指導するのはたいへんである。地域部活に移行しても、先生は指導するのか？
- ・小学校の人数が少なくなっているので、海っ子バスなどをを利用して、学校間の連携ができるだろうか。
- ・地域での指導者がいれば、ダンス部など新しい部活もできると考えている。
- ・休日、地域での部活動が主となってくると、現在のクラブチームのようにお金が必要となってくるのではないか。

グループC

「町内外での子どもたちの学び」

協議内容要旨

- ・C班につきましては、「子どもたちの学び」という部分で、A班と被ってしまいますが、「コミュニティスクール」の話題が出ました。
- ・コミュニティースクールの活動については、C班では概ね賛成の考えではありますが、地区ごとの考え方もあり、学校がやりたいこと可能なことを協力・調整していくことのできる体制づくりが今後の課題なのではないかとの意見がありました。

- もう一つの話題は、姉妹町村である岐阜県の八百津町、長野県の下諏訪町について学ぶため、1年生の林間学校先を姉妹町村のどちらかにすることについてです。こちらについても概ね賛成ではありましたが、姉妹町村の生徒との交流は1年目からは難しいので、何回か重ねるごとに生徒との交流を進めていけばいいのではとの意見、学校側としては、1年生については入学して間もなくの行事であるので、学校生活が慣れる前に姉妹町村のことを学ぶことは難しいのではないかとの意見がありました。

グループD

「海っ子バスの活用について」

協議内容要旨

- 海っ子バスを活用する場面として、登下校での一部利用や休日の部活動、中学校統合により地域から学校が離れることになるため、友達と会うことや、各地区へ校外学習などで行くときに使用するなどが想定される。
- 海っ子バスを利用するとして、何よりも重要なのが安全に使用できること。
- バス停へ向かう際、横断歩道が近くにあるかなどが問題。待つスペースもどうか。安全が確保できるように要望していく必要がある。
- ダイヤ、ルートも課題があるが、令和5年10月に改正がある。ただ、実際に始まってみて出てくる問題や、こうして話し合う中で出てくる問題もあるので、その都度見直していくことが大事。
- また、令和5年4月から統合中学校がスタートしているわけで、このダイヤ等改正をなんとか令和5年4月からにできないか、要望していくことも大事ではないか。
- 遅刻したときにあまり待たないようなダイヤ調整があると、安心できる。
- 例えば中学生だけでバスに乗るということに対して、どう思うか。
- 車がないときなど、必要があるときは子どもだけで、友達同士などで乗っている。最初は不安もあったが、何度か使ううちに子どもだけで乗ることへの不安は減った。
- 海っ子サポーターがはじまり、ありがたい。ただ、登録が手間だったり、知らない保護者もいると思うので、例えば4月に一括して配付してくれると助かる。
- 是非継続してほしい。

〔資料〕

第4回中学校再編委員会（R4.6.22）における「熟議」協議内容まとめ

【コミュニティ・スクール説明後】質疑まとめ

- ・コミュニティ・スクールの導入は、統合中学校から始めるのか。小学校も同時、もしくは徐々に導入を進めるのか。
- ・このタイミングで導入する理由は、なにかあるのか。
- ・事務局は教育委員会が担うとのことだが、小学校も導入することになると、回っていかないのではないか。

→ 《教育委員会より(案)》統合中学校への導入を考えている。中学校は、生徒が地区と離れた学校に通うことになるので、学校と各地区の連携についてこれまで以上にしっかり考えていく必要がある。

小学校は現在、5地区に残す計画なので、当面は従来のしきみの中で学校と地域の連携を図っていただくことをイメージしている。

- ・そもそもコミュニティ・スクールとは、なんなのかが、よくわからない。学校運営協議会と地域学校協働本部を合わせた組織なのか。
- ・カタカナ言葉だと、なにをやるものなのか、イメージがわからない。
- ・従来のPTA活動との区分けはどうなるのか。例えば「除草作業」はPTAの案でも活動を予定するようなことだったが。
- ・イメージは分かるが、具体的にどのような活動をし、何を協議するのか分からない。
- ・先進地区の事例を知りたい。

→ (案) これまでには、地域による学校への「支援」が一般的であった(学校の依頼を受けて地域住民に力を貸していただく。一方向の支援)。

コミュニティ・スクール導入により、地域と学校が「連携・協働」する体制を目指す(目的やビジョン・将来構想を共有し、協力して子どもを見守り、育てていく)。

- ・学校運営協議会は年間何回開催するのか。

→ (案) 文部科学省作成の「『学校運営協議会』設置の手引き」(令和2年10月)では、「例」として、年間9回の計画が示されている。実際には会の内容を精選、工夫すると、6回～7回の開催が考えられる。

- ・この活動に対しての最終の責任者は誰になるのか。
- ・学校運営協議会の任期は。
- ・決められている協議会委員の選出の他、今資料に書いてある人以外で希望があった場合の取扱いはどうするのか。
- ・この活動は、ボランティアになるのか。

→（案）町教育委員会により「南知多町学校運営協議会規則」を定める。規則案には次の内容を盛り込む予定。

- ・運営協議会は、町教育委員会及び校長の権限と責任の下、活動する。会には、委員の互選により会長、副会長を置く。会長は会を総理し、協議会を代表する。
- ・委員の任期は2年とし、再任を妨げない。
- ・教育委員会が委員を任命するときは、校長に意見を聞く。
- ・委員の報酬は別途定める。（※詳細は未定）

A グループ【熟議】内容まとめ

- ・「自慢のふるさとに」とあるが、例えば日間賀島だと「観光」「漁業」という具体的ないいところがある。他地域だとそれがどこまではっきりしているのか少しわかりにくい面もある。元気のある分野で活躍している、「あこがれられる人」が子どもたちと関わるようになるといい。
- ・南知多町は、交通手段がない。子どもたちの遊ぶ場所がない。というのが現状。だとすると、子どもたちは出ていくのが「確実」である。他の地域（たしか碧南？）で、スケートボードを楽しめる場所があるそうだ。子どもたちが集まれる場所があるといいのだが、南知多では子どもたちが外にいない。
- ・結局、南知多はもともと別々の町村だったところ。現状がそれぞれ違う。共通して自慢できるものを創っていくのはこれからではないか。町に一つ、各地区の子どもが集まれるところがある、という姿もその一つかもしれない。
- ・だからこそ、小学生のうちに、各地区のいい所を知っているようになってほしい。中学生になってお互いに伝え合える、というのが理想。そうする中で「(町全体に関わる提案・実践の取組など)もう少し大きいことがしたい」となっていくといい。
- ・かつて南知多町で「まちづくり ゆめフェスタ」というイベントをやったが、参加者は「おじさん」ばかりだった。もっと若い人や子どもたちが参加できるイベントがあるといい。
- ・そういう意味では、日間賀島の取組はすごいと思う。日間賀中は東京で日間賀島のPR

をしている。今年はセントレアで中学生が PR をするようだ。それを広げて、中学生が南知多のアピールをするというのもいい。

- ・だが現実は、豊浜でテングサをとて寒天づくりを子どもとやろうとしても「内海の人はとっちゃダメ！」と言われてしまう（笑）。そういうこと（地区を越えて連携、協力できる活動など）こそ、学校でやれるように地域が協力できるといい。
- ・とにかく、「地域コーディネーター」はものすごく大事だろう。

B グループ【熟議】内容まとめ

- ・コミュニティ・スクールという言葉を聞いて、最初に不登校の子どもを地域で見守るイメージでいた。統合しても、地域単位の子どもたちのつながりを大事にしてほしい。4地区の交流も大事だが、自分の住んでいる地域を学んでほしい。
- ・中学校が統合されて、地域に中学生がいなくなってしまうので、地域を大事にしてほしい。日間賀では、地域と小中学校が連携して、地域の将来を考える会をおこなっている。コミュニティ・スクールといつても、一般的に何を実施するのか理解しづらい。各地域でおこなっている、地域サミットの全町版として、「南知多サミット」と名付けて実施していくと、みなさんの理解がしやすい。
今まで地域といえば、それぞれ日間賀や豊浜などであったが、「南知多サミット」として、南知多を考えることによって、地域イコール南知多となっていけるといいです。
- ・説明を聞いて思ったことは、地域コーディネーターを誰が担うのかが難しい。適任者がいるのか？人選が難しいと思う。実現できるなら、学校も助かると思う。

C グループ【熟議】内容まとめ

- ・このような制度になると、学校の先生の負担が増えるのではないか。
- ・文部科学省の提案した内容であると窮屈というか大変だと思う。実際に進めていくのであれば、南知多町版をよく考えていかなければならない。
- ・この制度は、学校が担ってきた業務や困っていることを協議会の方にお願いし、協力していただくことでもあるので、むしろ負担が軽減される方向になるのではないか。
- ・逆に協議会は、学校に「もっとこういうふうにしてほしい。」と要望も言える立場であるため、イーブンな関係を築くことが大切ではないか。そのためにはコーディネーターの役割が重要となる。
- ・そのためには、資料の8ページにあるように協議会は何をするのかを明確にし、規則を作って、任期や報酬を決めてきちんと整備することが大切。
- ・統合中では、いろいろな地区の人が集まるので、ボランティア団体などまとめる協議

会ができればいいと思う。

- ・統合間もないため、コミュニティ・スクールでできることをきちんと決めて実施する。
- ・あれもこれもは絶対にうまくいかないので、学期ごとにやれることをやってみたらどうか。

D グループ【熟議】内容まとめ

- ・先進地区の事例としては、登下校の見守りや学習支援があるのではないか。
- ・コミュニティ・スクールは、これまで学校や地域がやってきたことのまとめのようなイメージだ。
- ・日間賀島まちづくり協議会の取組が、コミュニティ・スクールに近いのではないか。
- ・南知多中になると校区が広域になるため、それがコミュニティ・スクール推進の弊害にならないか心配である。
- ・導入するならば、学校も地域もwin-winの関係になるように取り組むべきだろう。
- ・「コミュニティ・スクール」「地域学校協働本部」など、聞きなれない言葉が並ぶことで新しい大変な取組に聞こえるが、これまでやってきたことを継続し、そこに委員が入っていくイメージでいいのではないか。
- ・まずは、これまで学校と地域が協力してやってきたことを継続し、令和10年の新校舎へ移転するころまでに、南知多独自のコミュニティ・スクールができあがればいいのではないか。

〔資料〕

第5回中学校再編委員会（R4.8.25）における「熟議」協議内容まとめ

【テーマ】南知多中学校の校則について

- ① 腕時計やスマートフォンを「持ってきてよい」という意見について
- ② 頭髪に関する規定について

① 腕時計やスマートフォンを「持ってきてよい」という意見について

Aグループ【熟議】内容まとめ

《スマートフォン》

- ・スマートフォンは日間賀島の子が下校の際、東港、西港どちらに着くか予定と異なるときに保護者と連絡をとる場面に必要だという声を聞く。
- ・公衆電話があれば解決するのではないか（師崎港に公衆電話はある）。
- ・実際に、先日も合同部活の帰りにバスが少し遅れ、予定の船に乗れなかつたことはあった。その時は、名鉄海上窓口に相談したところ係員が学校に連絡をとってくれ、学校からメール配信により連絡ができた。
- ・イレギュラーな事態に対応することも、広い意味での勉強と言える。
- ・ただ、登下校中のトラブル（遅刻、早退含む）について、連絡が取れないのはやはり心配。それに向けてのシミュレーションも必要かもしれない。
- ・特別な場合で届けがあった件についての「届け出制」がいいのではないか。
- ・その場合は、「本当に必要なら」ということになるだろう。
- ・昼間は学校が預かるとよい。現にそうしている学校もある。
- ・破損等については、発生したとしても責任は親だと思う。絶対に学校が責任を負うことではない。

《腕時計》

- ・持ってきてよい。バスがこない場合もバスが遅れているのか、自分が遅いのか分からるのは不便だし、その後どうすればよいのかの判断に時間を知ることは大切。
- ・高価でない、通信機能がない、など「中学生らしい」時計であればよい。
- ・そろって購入してもよいかもしれない。

B グループ【熟議】内容まとめ

《スマートフォン》

- ・統合するからスマートフォンを持ってきててもOKというのはおかしい。現在の4中学

校では禁止なので、統合中学校でも禁止でよいと思う。

- ・中学校のうちは、必要ない。家で結構長くスマートフォンを見ているので、中学校で持ってきてよいとなると、ますますスマートフォンを見る機会が多くなる。
- ・登下校のスクールバス内において、体調不良などで緊急に連絡をしたい時に、生徒がスマートフォンを持っていれば、安心ではないかと思う。ただ。バス運転手がしかるべき対応をしてくれるマニュアルなら持たなくてもよい。
- ・学校内でのトラブルの元となる。誰かに盗まれたとか、壊されたとかのトラブルが出てくる。親からクレームがくる場合もありうる。持たせる方が、リスクが多い。
- ・先生も管理が大変。スマートフォンによるいじめや不登校が心配される。現在、学校では、持込み不可。自宅での使い方について指導をしているがトラブルは多い。学校での持込みOKとなると、いじめやトラブルが多くなることが心配される。

《腕時計》

- ・バス停まで行く時間や、バスが来る時間を把握する上で、時計は必要だと思う。
- ・日間賀の場合、決められた時間にみんなで船に乗り、師崎港からバスに乗るので、腕時計は必要ないと思う。最近の時計は、スマートフォン機能がついた時計や、高い時計などを付けてくると、学校内で盗られたとか、傷つけられたとかトラブルとなる。
- ・安い腕時計ならいいのではないか。ただいくらから安いのか決める必要がある。1万円以下とか。時計をなくしても、あきらめがつくものならいいのでは。
- ・時計をもたせてもいいと思うが、時計をなくしたり、壊されても、生徒間のトラブルには保護者は口を出さないなどの誓約がないと、学校での管理は難しい。

Cグループ【熟議】内容まとめ

《スマートフォン》

- ・連絡手段としては必要であるため、校門に入ったら電源を切る、学校に預けるなどのルールを徹底した上で持たせてもいいのでは。
- ・島の生徒はやはりあった方がいいし、他地区の子もバスに乗り遅れた場合不安になる。
- ・原則禁止とするが、特別な理由で必要な生徒は許可をもらい、親の責任のもと使用すればいいのではないか。
- ・生徒準備委員会の生徒の意見では、スマートフォンを持ってくることに反対の意見であった。理由として、高価なものであること、故障のトラブルへの不安、スマートフォンを持っていない人への配慮などであった。生徒の意見を尊重すべきでは。
- ・スマートフォンを学校で保管すればいいとすれば、教員の作業が増える。
- ・許可制にしても明確な基準がなければ、利用者が増えていくこともある。明確な基準を作るのは難しい。
- ・スマートフォンを持たなくても、学校や船乗り場、バスの運転手、近所の人など、連

絡する術を身に付けることも大切ではないか。

→生徒の意見を尊重しなければならないとの意見により原案通り「スマートフォンは持つてこない」こととする。

《腕時計》

- ・スマートフォンを持たせないのならば、時間の把握のため必要ではないか。
- ・夏休み中に行っている合同部活動では、バスが遅れる場合のあったため、時間がわかつていれば不安も解消される。
- ・高価でない、通信機能がないなど、ある程度の基準は必要。
- ・ずっと身につけるものなのか、体育の場合などに保管する場所の確保が必要。
- ・生徒が必要であれば持ってきててもよいとした方がいいのではないか。

→スマートフォンを持たせないならば、時間の管理に必要であるとの意見にまとまり、「腕時計は必要なら持ってきててもよい」こととする。

Dグループ【熟議】内容まとめ

《スマートフォン》

- ・「持ってきてよい」とすると、学校での扱いはどうなるのか。何台も先生方が預かることは可能なのか。
- ・何かあったときにスマートフォンで連絡することで、その状況は解決されるのだろうか。
- ・バスが遅れる、船が出ない等、あらかじめ分かっていることはメールサービスで十分ではないか。
- ・スマートフォンを所持していない子は、必要ないと保護者が判断して持たせていない。それを学校が校則で認めることは、家庭の考えと矛盾してしまう。
- ・原則スマートフォンの持ち込みはなしにして、必要な家庭が申請する方法ではどうか。
- ・どのような状況なら申請できるか、認められるか、という規則が必要になり、煩雑になるのではないか。
- ・よほどの場合を除いて、申請があるなら認めることになるのでは。

《腕時計》

- ・持ってきてよいという考えに異論はない。むしろどこに問題があるのだろうか。
- ・スマートフォンと同様の心配は腕時計にはない。
- ・船やバスでの通学になり、子どもたちは時間を逆算する生活が始まる。腕時計をつけて時間の管理をさせることが大切ではないか。

② 頭髪に関する規定について

Aグループ【熟議】内容まとめ

- ・スイミングに通っていて髪の色が落ちたときに「黒く染めなさい」はやめてほしい。
- ・最近ではどの学校もそういったケースで「染め直しなさい」という指導はないはず。
- ・頭髪に関する規定を緩めている学校も増えている。ある学校では今年からツーブロックやポニーテールについて「禁止」ではなくした。男子が「結ぶ」もある。
- ・奇抜でおかしな頭髪にしてきた場合、当然学校は生徒に声をかけるが、それは「その髪型に対して」というより「そのような髪形にした心境の変化に対して」の指導だろう。

《中学生らしい頭髪とは》

- ・「中学生らしい頭髪」について、(細かく定めなくても) 今の南知多の子たちには「それぐらいの常識はあるだろう」と思う。
- ・ただ、中学生の中には、突拍子もないことをしてしまう子もいる。
- ・「これは大丈夫（中学生らしい）」と考えて散髪したときに「ダメ」と言われたり、先生によって注意する人と注意しない人がいたりする、ということがしばしばある。それは保護者としても困るし本人も困るだろう。生徒準備委員会で挙がった意見は、そういう意味だと思う。
- ・保護者の場合、人によって言うことが違っていてもさほど話題にならないが、教員の場合は「言ってることが違う！」と不満を生む。
- ・教員の意識をそろえることにも難しさはある。規則については学校のもつ“永遠の課題”なのかもしれない。
- ・学校も、きっと決めれば指導しやすいし、緩めればダラダラしてしまう心配はある。ただ、緩めたことで「指導しなくてよくなった（楽になった）」という面も生まれる。
- ・教員も、保護者も、もちろん生徒も「ふさわしい（中学生らしい）頭髪（生活）」とは何か、に対する共通理解を図ることについては、今後もそれぞれが努力を続ける必要はあるだろう。

B グループ【熟議】内容まとめ

《中学生らしい頭髪とは》

- ・髪を染めたり、パーマはダメだが、あまり細かくは決める必要はないと思う。最近の中学生は、大人が思うほど、悪い子はない。周りを見て、自分で髪型とか気を付けると思う。
- ・清潔感のある頭髪なら、細かくいう必要はない。

- ・しかし、ある程度校則に明記していないと子どもたちは戸惑うのではないか。
- ・細かく決めると、それを避けて違う解釈をする子も出てくるのではないか。
- ・個人の人権尊重から、髪型について注意をすることにも気を使う。保護者に相談しながら、この髪型でいいのか話し合うこともある。ただ保護者の理解がないと、いろいろ難しい。
- ・体育や授業に邪魔にならない髪型なら、細かく規定する必要はない。

Cグループ【熟議】内容まとめ

《中学生らしい頭髪とは》

- ・女子であれば、髪の毛が肩にかかるようになったら、結んだ方がよい。
- ・男子のツーブロックについては、一律禁止するのではなく、短めの髪でさっぱりと刈り込んであれば、中学生らしいのではないか。
- ・生まれつき茶色の髪の子が厳しく指導されたことがあると聞いたことがあるため、生徒の人権を守りながら、一律に「茶髪禁止」としない方がよい。
- ・ツーブロックがいけない理由が明確でない。中学校はもちろん、高校の先生も困っている。今の4中学校の生徒の髪型としてバラツキはあるがそんなに派手な子はいないため、中学生らしい髪型としてはいいのではないか。
- ・周りの生徒と比べて、明らかに髪型が違う生徒については注意すべきではないか。
- ・男子、女子とも体育など汗をかくことが多いため、できるだけ短い髪型がいいと思う。女子は長い髪を結び、男子は爽やかな髪型ならばいい。
- ・髪の量が多い子や強い癖毛の子は、髪を整えるのに大変苦労している。一律に「パーマ禁止」としてしまうと縮毛矯正ができなくなってしまうので、できれば禁止しないでほしい。
- ・生徒どうしで話し合い「どんな髪型がいいのか、いけないのか」を決めていくことも大切である。

→全体的に細かくルールを決めるのではなく広い範囲で許容できる髪型としていけばよいとして、原案通り最小限の規定として示すのがよい、とまとめた。

Dグループ【熟議】内容まとめ

(時間的に十分深められず、両面について意見が示されるのみとなつた)

【細かい規定があった方がよい】

- ・以前、役場の制服を廃止したことにはかわった。職員はどのような服装が、清潔なんか分からず、困った様子があった。大人でもモデルが示されないのは困るのに、子ど

もならなおさらだと思う。

- ・指導する側も、規定がない中でどのように指摘すればよいか困るだろう。

【原案通りでよい】

- ・これから考え方として、押しつけにならないような校則が大切ではないか。
- ・開校し、子どもたちが不便に感じるようであれば、頭髪のみならず、自分たちで校則を改正していけばよい。

〔資料〕

第6回中学校再編委員会（R4.9.22）における「熟議」協議内容まとめ

【テーマ】中学校の制服について

- ① 制服は必要か
- ② 制服に求める役割は何か
- ②-1 「現行の制服を継続する（＝改定する必要はない）」という考えについてはどうか
- ③ 制服を指定する場合に、どのような考え方を大切にするか

① 制服は必要か

A グループ

- ・必要。 一体感がでる。

B グループ

すべて委員が必要と回答

・内海中では夏の暑いとき、指定Tシャツとハーフパンツを制服として認められているので、いいと思う。

・委員としては必要であると思うが、最終的には子どもが決めていけばいいと思う。

C グループ

- ・必要。 集団生活の基本となるものである。

※グループの方全員の意見は一致したが、夏季は学校で揃えたTシャツやポロシャツなどを着用することが多く、制服を着る機会が減っているため、本当に制服が必要なのかとの意見もあった。

D グループ

- ・必要。 生徒準備委員会の代表生徒たちの意見の通りである。

② 制服に求める役割は何か

A グループ

・私服の場合に考えられるそれぞれの「差異」が回避でき、無用なトラブルが減る。
また服の価格など「格差」が表に出にくくなる。

・着る服の選択に迷わなくて済む。 以前、勤務していた学校で「カジュアルデー」として私服登校もよいこととする機会をもったことがあった。はじめはいろいろな私服を着てきたが、そのうち制服、ジャージに落ち着いた。生徒の本音として私服を選ぶのは「面倒だ」という思いはあるかもしれない。

・「自由」だと、保護者にとっても選ぶのに困る面がある。服を買うときにも「いいかな」「ダメかな」と迷うことが増えそう。結局、制服の方が保護者も楽だ。

- ・生徒にとっても、朝の準備など早くスムーズにできる。

A グループ

- ・統一感が大事である。入学式や卒業式など式典は、制服があつた方が一体感がある。
- ・制服を着ることを楽しむことができる。女の子は、独特のかわいさを求めることがある。
- ・ジェンダーに対応できる。
- ・私服に比べると、今日何を着ていくか考える必要がないので楽である。
- ・制服を着ると身が引き締まる。
- ・私服の場合、洋服の趣味によって、偏見をもつて接してしまう場合がある。大学に行くとそうゆうことを感じてしまうので、中学生のうちは、同じ制服で、偏見なくだれとも仲良くなつてほしい。

B グループ

- ・私服の場合、価格やセンスなど個人差が出てしまう。トラブルのもとになる可能性もあるが、校則で求められる定義が難しい。
- ・礼節を求められる場面（式など）で着用するのはやはり制服がふさわしい。
- ・T P O（冠婚葬祭など）に合わせて着用できる制服は経済的にも理にかなっている。
- ・制服を着ることは中学生らしいと感じる。自由にしてしまうと気が緩んでしまう気がする。

C グループ

- ・L G B T Qをはじめとする多様性への対応ができること。
 - 「詰襟かセーラー服」という指定から、選択できることが必要である。
- ・機能面が今の時代に合っていること。
 - 硬くて動きづらい詰襟、背中や足元が寒いセーラー服が、学習しやすく動きやすい服装なのか。時代に合わなくなってきたているだろう。
- ・気持ちの切り替えができる。
 - 登校時に制服に着替え、帰宅時に普段着に着替えることで、プライベートと学校の気持ちの切り替えができるだろう。また、私服で通学していた小学生の頃と比べ、制服に着替えることで、中学生になった自覚も芽生えるだろう。

②-1 「現行の制服を継続する（＝改定する必要はない）」という考え方についてはどうか

A グループ

- ・年々、夏の暑さや冬の寒さは厳しさを増しているように感じる。気候に合わせて着脱がしやすいプレザータイプの検討は必要。
- ・ジェンダーの視点からも検討の時だと思う。
- ・特に女子のセーラー服は寒いし、「スカートをはきたくない」と考える子もいる。
- ・他市町や高校でも変わってきてる。検討は必要である。

B グループ

- ・そのままでいいと思う。(学生服とセーラー服)
- ・今の流れからすると、ブレザーに変えていく必要がある。ジェンダーに対応できるように、選択肢が増えることは、良い。

C グループ

- ・女子生徒で「スカートをはきたくない」と考える子もいるため、スカートでもスラックスでも対応できるブレザータイプの制服の検討は必要ではないか。
- ・気候に合わせて着脱がしやすい制服の検討は必要。
- ・やはりセーラー服は中学生らしい。「高校になったらブレザーを着たい」という憧れの気持ちを持っている子もいると思う。

D グループ

- ・開校のタイミングでブレザーが導入されてもいいぐらいではないか。
- ・移行期間をもってスタートするとよいが、所属感や一体感が生まれるよう、いずれ一つの制服に収束していくのではないか。詰襟やセーラー服がいいという保護者や生徒もいるだろうが、そのこだわりも減っていくのではないか。

③ 制服を指定する場合に、どのような考え方を大切にするか

A グループ

- ・「ジェンダー」や「性に関する多様性」
- ・生徒が「着たい」と思えることは大事。学校のシンボルの一つとして、自慢に思えるものを用意したい。
- ・「統一感」「そろえる」ことが制服の役割であるので、現行のものと「どちらでもよい」ではなく、変えるのならば変えてしまうほうがよい。その意味で、ブレザーのインナーとしてのシャツもそろえるのがよい。
- ・ポロシャツを制服として使用することも、気候に合わせた着方としては必要。
- ・やはり経済面が大事。価格が現行のものより高くならないようにしたい。あまり高くなるようだと、初めの数年間は特に「おさがり」も出回らないので、経済的に苦しい世帯には何らかの補助も必要かもしれない。同様に「おさがり」でも十分着られるように、制服の「丈夫さ」も重要なポイントだろう。

B グループ

- ・保護者の費用負担を考えてほしい。
- ・制服の着心地は、重要である。また、制服によっては、軽くて丈夫なものがあるので、毎日着る上で重要である。
- ・丸洗いできるものが良い。
- ・子どもたちの選択で、決めていただければいい。

C グループ

- ・制服はその学校を表していると思う。移行期は制服がバラバラになることは仕方がないが、変えるのであれば現行のものと「どちらでもよい」ではなく学校として揃えた方がよい。
- ・季節に応じて組み合わせができる制服がよい。
- ・やはり制服の価格面が心配されるところであるため、現行の価格に近いものにしてほしい。

D グループ

- ・L G B T Q をはじめとする多様性への対応。
- ・機能面が優れていること。
- ・じっと50分座って受けるという以前の授業から、動きのある授業に変容している。
学校での3年間の活動に耐えうるものが必要である。
- ・細かいことも大事だが、きりがない。せっかく新しく導入しても、「以前の制服の方がよかった」とならないよう、大枠でとらえ、基礎づくりをすることが大切だろう。
- ・制服は詰襟、セーラー服が当たり前という意識が強い。よりよい制服を導入できるよう、生徒、保護者、学校、地域等が当たり前を見直すという意識をもつことが大切ではないか。

[資料]

第7回中学校再編委員会（R4.10.28）における「熟議」協議内容まとめ

【テーマ】今後の南知多町における学校教育について

「今後の南知多町における学校教育（南知多町教育委員会：10月26日現在案）」の内容に沿って、各グループで設定したテーマについて協議。

（7）南知多町の産業とその振興、防災、福祉、伝統文化等について、深く学ぶ機会を工夫する

【グループB】

○町の現状・将来像と学校教育の連携

- ・町の産業を学ぶ機会が増えることはよいことである。日間賀島の場合、中学校で（今年度は小6も）漁業体験を行っていただいているが、キャベツ畑や田んぼなど農業体験ができるのは子どもたちにとっていい経験。逆に半島側の子どもたちが漁業体験できるのもいい経験となる。
- ・福祉の担い手としての意識向上やボランティアを学ぶために社会福祉機関と連携することは、将来の南知多を考える上で、重要である。現在の「今後の南知多町における学校教育」の中では福祉関係機関との連携が記述されていないが、福祉の充実や担い手の育成を考える今から子どもたちに学んでいってほしいので、ぜひ追記をお願いしたい。

【グループC】

「とにかく統合するからには南知多町に残ってもらうこと」「子どもたちに南知多町を知ってもらうこと」を第一に考えていく必要がある。

○どのようにしたら地域を知ることができるのか

- ・南知多中学校の独自のカリキュラムを作り活動する。例えば、島の生徒には農業体験を、半島の生徒には、漁業や観光の体験をすることにより、町にはいろいろな職業があること。将来の担い手としての意識向上のきっかけとなるかもしれない。
- ・来年度、南知多中学校では毎週木曜日の5・6時間目を使い、「総合的な学習」の時間を設ける予定。
- ・現在2年生が行っている職場体験を、町内の産業を中心に行うとよい。
- ・学校独自の行事ができるとよい。例えば、他県の学校では伝統的に山登りを行っている。そのための準備は大変であるが、終わったあとの達成感を味わってほしい。地域の方も協力して子どもたちを育ててほしい。

- ・地域の方が、家庭科で魚さばきを教えたり、漁業体験を行ったりするとよい。

○課題

- ・南知多中学校の総合的な学習の計画が示されている。地区の良いところは紹介できるが中学生レベルで知らないところを探し当てることができるか。教員も知らないことが多い、いろいろなことを経験させたいがどこまで現実として受け入れてもらえるかが心配。コミュニティー・スクールがあれば地域の方に相談し、情報を教えてもらうことができる。

(8) 地域の担い手、作り手として、地元地区のサミットや行事への参加を図るとともに、学習成果を地域に生かす工夫をする。

【グループC】

「とにかく統合するからには南知多町に残ってもらうこと」「子どもたちに南知多町を知ってもらうこと」を第一に考えていく必要がある。

○どのような関り方をすればよいか

- ・同じ町民として、他の地区に出向くことが大切。「この町を支えていく」思いを育てるため、中学生のレベルで町のことを考える機会を作ってほしい。
- ・日間賀島では、毎年小中学生、大人を交えて「日間賀サミット」をこれまでに十数回行っている。土台として、小学生はアイデアを出し、中学生はそのアイデアの具体案を考え、大人が実現すること、子どもたちの行動を影で支えることをしている。他の地区の中学生や大人、先生もぜひ日間賀サミットに参加してもらい、参考にしてほしいと考える。地区の自慢でもいいので、お互いが町の知らない面を知っていくことができる。子どもたちには「自分で考える力」を身に付けてもらいたい。

(9) スクールカウンセラー（SC）・スクールソーシャルワーカー（SSW）を配置し、生徒の悩み相談、不登校対策、各家庭の支援などを充実させ、小中学校間での指導の連続性を図る。

【グループA】

○相談しやすい体制の構築

- ・現状では、子どもたちが「相談したい」と思ったタイミングで相談できる体制なのだろうか。例えば「相談室」があり、そこに行くと相談を聞いてもらえるような環境があるとよい。
- ・子どもにとって、スクールカウンセラーは身近な存在なのか。自分だったら、身近な担任の先生とかに相談する気がする。

- ・(先生には相談しにくいことを) 直接相談できるといい。相談できる方が常にいらっしゃれば、相談しやすい。
- ・配置するには財源も必要。コミュニティー・スクールのしくみなどで地域の力を借りる手立ても考えられるといいかもしない。

(II) 部活動について

【グループA】

○希望参加制になることの心配

- ・「部活をやりたくない」と(わが子が)言い出した時に、本当にやらないままになってしまいそう。
- ・「友達がやらないなら…」と考える生徒も増えるかもしれない。
- ・令和5年時点では学校部活動でもあり、小6の子は部活を楽しみにしているだろうから、当面はそれほど心配ないのではないか。

○部活動の地域移行に関する課題

- ・希望参加制とも関わるが、地域に移行するのであれば受け皿の整備が必要
- ・指導者が見つからないというが、町は働きかけ(募集など)をしているのか。
- ・住民にスポーツ庁の提言(「運動部活動の地域移行に関する検討会議の提言」R4.6月)を周知する必要がある。自分たちも、部活がそのような方向に行こうとしていることを知らなかった。知れば指導者を「やろうかな」と考える人もいるかもしれない。
- ・地域の文化サークルなどで、中学生が大人と一緒に文化活動を行うようなイメージも共有できるとよい。

【グループB】

○南知多中開校当初の部活動と、今後の部活動の在り方

- ・学校が統合して、たくさんの仲間と部活ができるのはいいが、部活内的人数が多いからと、場所を分けて行う(具体的には卓球部)のは疑問である。人数が多くて練習場の確保が難しいなら、募集人数を減らすなどした方がいい。
- ・卓球部の人数が多い問題の解決となるかもしれません、新しい部活ができるものか。ダンス部とか美術部以外の文化部があるといい。
- ・希望参加制になるのは、いいことである。
- ・地域移行された場合の費用負担が気になる。現在の部活動だとPTA会費から部活動費へいくらか出していたが、運営はどうなるのか心配。指導者がいない場合は、どうなるのか。

【グループD】

○生徒の交通手段について

- ・休日には公共交通機関で通学しているが、1時間以上かけて登校し、活動が2時間程度、また1時間以上かけて下校する生徒がいる。いい方法はないだろうか。
- ・令和5年の10月に海っ子バスの路線、ダイヤの大幅な変更が行われる。師崎港から河和駅まで、右回りと左回りで豊浜地区、豊岡地区にも少し入り込む路線になる案が出ている。ただし、駅との接続を考えるために、中学生の通学にとって改善となるかどうかは分からぬ。
- ・11月からは、土曜日の午前中にスクールバスを運行する予定である。

○活動場所について

- ・男子バレーボールの会場がせまいと聞いている。総合体育館を利用することや、練習会場を変更することはできないだろうか。
- ・練習会場は分散する方がよいのか、集約する方がよいのか、学校とも相談しながらよりよい活動ができるように進めていきたい。

○地域移行について

- ・人材の確保はできるのだろうか。
- ・両島は、濃霧で登校できないことも考えられる。島内にも指導者を引き受けてくれる人材がいると、島内の活動は可能になる。
- ・令和5年度は学校部活動でスタートし、移行できる種目や文化部から進めていく。先進市町を参考にしながら、本町での持続可能な地域部活動に移行できるように進めていく。

その他

【グループB】

- ・統合校では、ぜひ国際理解を深めてほしい。海外都市との交流のようなお金がかかるだけでなく、インターネットを通じた国際社会との交流ができたらしい。
- ・新しく始まる学校なので、子どもたちには1期生として、いろんなことにチャレンジしてもらいたい。